

シンポジウム「中山間地の防災を考える IN HOKURIKU・SHINETSU」が開催される

平成22年11月10日（水）、福井県鯖江市の「うるしの里会館」において、(社)全国治水砂防協会並びに全国治水砂防協会福井県支部、石川県砂防協会、富山県治水砂防協会、新潟県治水砂防協会、長野県治水砂防協会の主催のもと、シンポジウム「中山間地の防災を考える IN HOKURIKU・SHINETSU」を下記のとおり開催いたしました。

北陸・信越の各県では、北アルプスに代表される山々とそこを水源とする数多くの清流など、豊かな自然が地域に暮らす人々の文化・生活を育んできました。しかし、その一方で急峻な地形や脆弱な地質を有し、全国有数の豪雪地帯でもあるため、度々大規模な土砂災害が発生し、人々を苦しませてきました。特に近年は、相次いだ台風や豪雨災害、地震などにより、多大な被害が生じています。

このような状況の中、砂防事業や地すべり対策事業等が明治時代から営々と実施されてきています。特に砂防事業が実施される地域は中山間地域が多く、近年、過疎化や少子高齢化が急激に進行し、地域の存続、活性化が課題となっています。これらの問題は、当該地域のみならず、下流域の地域に対しても大きな影響を及ぼす問題となっており、今後の地域づくりにおいては、人が住み続ける中山間地域の防災力

の向上と活性化のあり方という視点がかかせなくなってきています。

そこで、中山間地が抱える課題に対して、砂防事業がどのように関与し、解決に寄与していくのかを考え、地域防災力の向上と地域活性化のあり方について検討するため、本シンポジウムを開催いたしました。

当日は、北陸・信越地区各地の防災担当者、一般住民等、約130名の方々に参加していただき、熱気あふれる有意義なシンポジウムとなりました。多数のご参加ありがとうございました。

シンポジウムは2部構成で実施し、第1部では、アカタン砂防エコミュージアム・田倉川と暮らしの会事務局の田中保士氏に「一砂防文化が刺激を起こす一日本初の砂防エコミュージアムをつくった水源集落」と題し基調講演をしていただき、第2部では、コーディネーターに、元福井テレビ解説委員室長で、平成16年福井豪雨時には河和田町区長を務められていた福井県立大学非常勤講師の土山弥一郎氏、パネリストには、基調講演に引き



亀江幸二常務理事による開会挨拶



田中保士氏による基調講演

続き田中保士氏、神宮川砂防・一般県道大滝定友線整備促進期成同盟会会長の柳瀬彦左衛門氏、アルマス・バイオコスモス研究所代表の水上聡子氏、福井県土木部技幹の西山幸治氏、鯖江市長の牧野百男氏の5名をお迎えし、



パネルディスカッションの様子



パネル展示会場

「地域とともに、活力ある中山間地へ」をテーマとしてパネルディスカッションを行いました。

参加者の皆様も、コーディネーター及びパネリストの方々の議論を熱心に聞き入っておられ、盛況のうちに終了しました。なお、本シンポジウムはインターネットを通じてライブ中継され、全世界に向けて配信されました。

福井県土木部砂防海岸課、鯖江市をはじめ、ご多忙の中、本シンポジウムの企画・準備・運営にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

【プログラム】(敬称略)

1. 開会挨拶

亀江幸二(社団法人全国治水砂防協会常務理事)

2. 基調講演「一砂防文化が刺激を起こす一日本初の砂防エコミュージアムをつくった水源集落」

田中保士(アカタン砂防エコミュージアム・田倉川と暮らしの会事務局)

3. パネルディスカッション

・テーマ「地域とともに、活力ある中山間地へ」



牧野百男全国治水砂防協会福井県支部長(鯖江市長)による閉会挨拶

・コーディネーター

土山弥一郎(福井県立大学非常勤講師, 元河和田町区長, 元福井テレビ解説委員室長)

・パネリスト

田中保士(アカタン砂防エコミュージアム・田倉川と暮らしの会事務局)

柳瀬彦左衛門(神宮川砂防・一般県道大滝定友線整備促進期成同盟会会長)

水上聡子(アルマス・バイオコスモス研究所代表)

西山幸治(福井県土木部技幹)

牧野百男(鯖江市長)

4. 閉会挨拶

牧野百男(全国治水砂防協会福井県支部長, 鯖江市長)

主催: (社)全国治水砂防協会, 全国治水砂防協会福井県支部, 石川県砂防協会, 富山県治水砂防協会, 新潟県治水砂防協会, 長野県治水砂防協会

共催: 鯖江市

協力: 福井県, 石川県, 富山県, 新潟県, 長野県

企画: NPO 法人砂防広報センター



シンポジウム会場